新約聖書の中の奥義⑫

聖書フォーラム　福岡集会
2021年6月19日

出典：MBS182 “The Eight Mysteries of The New Testament”
Arnold G. Fruchtenbaum TH.M.,PH.D.

この学び全体の構成

1. イントロダクション
2. 奥義としての神の国
3. 教会に関する５つの奥義
4. **イスラエルが頑なになることに関連する奥義**
5. サタンの２つの奥義と
   それを打ち破る神の8番目の奥義

第４部のアウトライン　P.1

イスラエルが頑なになることに関連する奥義

A) ロマ9～11章の教え
   - I. **イスラエルのメシア拒否についての神学的理解**
   - II. イスラエルのメシア拒否についての説明：３つの無知
   - III. イスラエルのメシア拒否についての慰め
   - IV. パウロの頌栄

B) ロマ16章25～27節の教え

ヘブル的視点で聖書を学ぶ

1. 文脈に沿って、字義通りに読む
   - 聖書の書かれた時代背景、用語の意味
2. 神の啓示は少しずつ拡大してきた（漸進的）
   - ディスペンセーション（神の計画における時代区分）
   - 信仰の内容は時代で異なる（救いの条件「恵みと信仰」不変）
3. イスラエルと異邦人、霊的イスラエルと教会、を区別する

A - Ⅰ　アウトライン

イスラエルのメシア拒否についての神学的理解

1. パウロの悲しみとイスラエルの特権
2. 聖書の歴史に照らして
3. 聖書の原則に照らして
4. まとめ

１．パウロの悲しみとイスラエルの特権

ロマ9：1～5

1. 1～3節　パウロの悲しみ
2. 4～5節　イスラエル民族の８つの特権

1-1)　パウロの悲しみ　　P.2

ロマ9：1〜3

① 「証言している、私と共に、私の良心が、聖霊に中にあって」
② 大きな悲しみ、体にも現れて痛みを覚える
③ 同胞のためなら、私自身がのろわれた者となってもよいとさえ思っている

1-2)　イスラエル民族の８つの特権　P.2

ロマ9：4〜5節

① 子とされること・・・民族全体として神の子
② 栄光・・・シャカイナ・グローリー
③ 契約・・・４つの無条件契約
④ 律法の授与・・モーセの律法（条件付契約）

1-2)　イスラエル民族の８つの特権　P.3

⑤ 礼拝【神に仕えること】・・・レビ族
⑥ 約束・・・メシアに関する約束
⑦ 父祖たち・・・アブラハム、イサク、ヤコブ
⑧ キリスト・・メシアはイスラエル民族から

1-2)　イスラエル民族の８つの特権　P.3

ロマ9：5

メシアについて３つのこと

- 民族性・・・ユダヤ人である
- 権　限・・・万物の上にある
- 神　性・・・とこしえにほむべき神である

２．聖書の歴史に照らして

ロマ9：6〜13

1. 6節　二つのイスラエル
2. 7〜13節　聖書の歴史の中から二つの対比
3. 二つの対比から、４つのポイント
4. まとめ

2-1)　二つのイスラエル　　P.4

ロマ9：6

① ２つのイスラエルが存在する
② 民族全体、すべてのユダヤ人
③ 信仰あるユダヤ人、霊的イスラエル、レムナント（イスラエルの残れる者たち）

2-2)　聖書の歴史から二つの対比　P.4

ロマ9：7～13

① イシュマエルと**イサク**

「肉のこども」対「**約束**のこども」

【肉による子】対【**約束**による子】

② エサウと**ヤコブ**

神に選ばれなかった子　対　神の**選び**を受けた子

2-3)　二つの対比から4つのポイント P.4

① イスラエル民族はその歴史の中で多くの失敗を重ねてきたが、すべてのことは**神の計画**に従って動いている

② 霊的祝福はユダヤ人というだけで受けられるものではない。【ユダヤ人＋善を行うこと】でもない。

《ユダヤ人＋**信仰**》＝**霊的イスラエル**が受ける

2-3)　二つの対比から4つのポイント P.4

③ 霊的祝福は、人の行いによるのではなく**神の恵み**である。「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」とあるように、**神のみこころを通して**のみ、来る

④ **将来においてイスラエルに約束されていること**も、ユダヤ人というだけで受けられるものではない。《ユダヤ人＋信仰》＝**霊的イスラエルが受ける**であろう。

2-4)　まとめ　P.4

① **レムナント（イスラエルの残れる者たち）**が神の約束を受け取るであろう。その他のイスラエルは神の約束を受け取らない。

② パウロはイスラエルの失敗について語る中で教会がイスラエルに置き換わったとは、全く言っていない。

教会は霊的イスラエルではない

3．聖書の原則に照らして

ロマ9：14～29　聖書の原則に照らしてイスラエル民族によるメシア拒否を見る。パウロは２つの質問を提起して、それぞれに答える

1. 神に不正はあるのか？→ない。神はあわれもうと思う者をあわれむ。神の主権
2. それなら、なぜ神は人を責めるのか？怒りの器とあわれみの器

3-1)　神に不正があるのか　P.5

ロマ9：14～18

① 14節　決してそんなことはない

② 15～16節　神はあわれもうと思う者をあわれむ

③ 17節　神の主権

④ 18節　結論　神はみこころのままに人をあわれむ

3-1)　神に不正があるのか　P.5

⑤ 18節「ある人を頑なにされる」

- ヤコブ1：13　「神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれかを誘惑することもありません」
- 神が直接的に人を頑なにして、滅びに追いやるのではない

3-1)　神に不正があるのか　P.5

- 人は生まれたときから霊的に死んでおり、滅びに向かっている
- 神を認めようとも信じようともしなければ、ますます頑なになる
- 霊的に死んでいる人が、神を信じることができるのは、神のあわれみによる

3-2)　なぜ神は人を責めるのか　P.5

ロマ9：19～29

① 20～21節　陶器師と陶器の話

- 20節　神に言い返すあなたは、いったい何者か
- 21節　陶器師は同じ土のかたまりから

3-2)　なぜ神は人を責めるのか　P.5

- 神がある人を選んで、その人をあわれんでくださるから救われる
- さもなければ、誰も救われない
- ロマ3：9～11

3-2)　なぜ神は人を責めるのか　P.6

② 22～23節　怒りの器とあわれみの器

- 22節　滅ばされるはずの怒りの器

滅びのために自分自身をふさわしくしている

- 23節　あらかじめ備えられたあわれみの器

救いにふさわしいように

神によって前もってそのように造られた

3-2)　なぜ神は人を責めるのか　P.6

③ 24 節　救いの対象はユダヤ人と異邦人の両方

④ 25～29節　結論

- 25～26節　異邦人の中からも、あわれみの器となる人々がいる
- 27～29節　他方、イスラエルの大多数は怒りの器となった。しかし、依然として、イスラエルの中には、レムナントがいる。

4) まとめ P.6

1. イスラエルがメシアを拒否したことは、神の計画の一部であった
2. イスラエルの拒否によって、神のあわれみは異邦人に及んだ
3. イスラエルは排除されたわけではない。レムナントがいるからである